

■ 指定管理者制度導入施設 中間評価シート ■

1 基本情報

公の施設名	市民・大学交流センター（ユニコムプラザさがみはら）
指定管理者名	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設設置条例	相模原市立市民・大学交流センター条例
施設の設置目的	市民と大学等との連携により、地域の課題の解決及び地域の活性化を図る （相模原市立市民・大学交流センター条例第2条）
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> 所在地 南区相模大野3丁目3番2-301号 床面積 2,965.82㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造 施設 セミナールーム1・2、実習室1・2、ミーティングルーム1・2・3・4・5 マルチスペース、AVスタジオ、シェアードオフィス1・2・3、 大学情報コーナー、地域情報コーナー
施設所管課	市民局 市民協働推進課

2 管理実績

項目（単位）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
利用者数合計（人）	96,434	105,033	108,567		
利用料金合計（円）	34,299,916	35,416,843	41,986,889		

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 （20点満点）	評価点 3.3
	D	D	B				

指標1	
指標名（単位）	【指標1】有料施設の利用率（シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーを除く）（%）
指標式と指標の説明	指標式：有料施設の利用コマ数／有料施設の利用可能コマ数×100 有料施設の利用率を指標とすることで、施設の活用を図るとともに、施設利用者への施設の設置目的の認知度向上を推進するもの。

項目（単位）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値（%）	77.0	79.0	81.0		
実績値（%）	63.5	62.3	57.3		
達成度（%）	82.5%	78.9%	70.7%		

指標2(1)	
指標名(単位)	【指標2(1)】有料施設の利用率(シェアードオフィス)(%)
指標式と指標の説明	指標式：利用日数/利用可能日数×100【①個人<30名>、②団体<8団体>、③大学<4大学>】シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。 ※指標式の利用日数/利用可能日数はコマ数に準ずる。

項目(単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	42.0	46.0	50.0		
実績値(%)	28.7	33.9	32.3		
達成度(%)	68.3%	73.7%	64.6%		

指標2(2)	
指標名(単位)	【指標2(2)】有料施設の利用率(大学情報コーナー)(%)
指標式と指標の説明	指標式：利用日数/利用可能日数×100【(大)<15ブース>、(小)<3ブース>】シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。 ※指標式の利用日数/利用可能日数はコマ数に準ずる。

項目(単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	100.0	100.0	100.0		
実績値(%)	120.0	120.0	113.3		
達成度(%)	120.0%	120.0%	113.3%		

指標2(3)	
指標名(単位)	【指標2(3)】有料施設の利用率(地域情報コーナー)(%)
指標式と指標の説明	指標式：利用日数/利用可能日数×100【(小)<9ブース>】シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。 ※指標式の利用日数/利用可能日数はコマ数に準ずる。

項目(単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	100.0	100.0	100.0		
実績値(%)	97.2	94.4	91.7		
達成度(%)	97.2%	94.4%	91.7%		

指標3	
指標名(単位)	【指標3】地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡し件数(件)
指標式と指標の説明	市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)と大学が連携して、地域の課題解決や活性化を実現するための助言や企画提案等を行った件数を指標とすることで、センターの設置目的の達成を図るもの。 ※対象自体の企画・運営にセンターが携わり、助言・企画提案を行ったものとする。(募集・事業の周知を除く)

項目(単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(件)	27	28	28		
実績値(件)	21	24	28		
達成度(%)	77.8%	85.7%	100.0%		

指標4 (1)	
指標名 (単位)	【指標4 (1)】「地域づくりプロジェクト」の対話の場の数 (回)
指標式と指標の説明	<p>「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の1つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。</p> <p>『地域の課題解決等に向けて具体的テーマに沿って定期的に活動を行う団体 (市民、大学) を募集し、大学と地域との連携を望む事業を認定する。その後、当該団体と取組の内容、方法、目的等について、様々なアイデアを出し合い企画、立案、検討等を行う機会。』</p>

項目 (単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (回)	4	4	4		
実績値 (回)	5	4	4		
達成度 (%)	125.0%	100.0%	100.0%		

指標4 (2)	
指標名 (単位)	【指標4 (2)】実施した「地域づくりプロジェクト」の本数 (本)
指標式と指標の説明	<p>「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の2つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。</p> <p>『プロジェクトを進行させるため、協力する大学が1つ以上あり、企画段階で出されたアイデアを実践することや、目的の達成のために必要な人材の募集や資源の収集などを行うことで、プロジェクトとして設定した目的に沿った事業を実施する。』</p>

項目 (単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (本)	5	6	6		
実績値 (本)	0	1	7		
達成度 (%)	0.0%	16.7%	116.7%		

4 事業の実施状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 (20点満点)	評価点
評価 (5評価)	B	A	A				13.3

市が指定する事業

主な事業名	内容等	効果等
大学連携に係る施設利用等に関する事業 事業計画書①	大学連携に係る施設利用等に関する事業	
	<p>【大学連携に係る施設利用】 大学との連携により地域の課題の解決又は活性化を図るための事業のための利用</p> <p>【団体登録】 大学等との連携により地域の課題解決又は活性化を図るための事業を施設にて実施する団体の登録</p>	<p>■大学連携に係る減免利用数 R4：13件、R5：16件、R6：14件</p> <p>■登録団体数 R4：43団体、R5：44団体、R6：38団体</p>
大学連携に係る施設利用等に関する事業 事業計画書⑤	<p>地域活動や市民活動への参加方法を知り、活動に結びつけ、更に活動を牽引する担い手づくりを目的とした事業</p> <p>【さがみはら地域づくり大学】 市民等が、協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために役立つ知識や技術を体系的に学ぶことのできる場の提供</p>	<p>■コース受講者数 R4：23人(うち短縮版コース7名) R5：21人(うち短縮版コース4名) R6：29人(うち短縮版コース4名)</p>

企画提案事業		
主な事業名	内容等	効果等
大学の研究教育活動や地域連携の取組等の情報を発信する事業 事業計画書②	情報コーナー出展大学・団体による地域貢献の取組事例や市民・他団体、大学との連携について紹介する事業	
	【施設及び事業の広報・PR】 センターの利用、市民と大学との連携促進を目的としたPR	ホームページ、SNS（Facebook、Twitter、Instagram）、イベント・事業のチラシ等、様々な媒体で周知を行った
地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡しをする事業 事業計画書③	市民と大学が連携を深め、課題を共有し、大学の専門性と人材を活用して地域課題の解決や地域の活性化に取り組むための橋渡し事業	
	【市民と大学等の連携支援】 市民と大学が連携を行うための橋渡しを行う	■橋渡し成立件数 R4：21件、R5：24件、R6：28件
	【シェアードオフィス交流会】 《年間12回計画》 入居者同士の連携、協働を目的とした交流会を実施	各年度ともに計画通りの12回開催することができ、毎回8～14団体の参加があった。
市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する事業 事業計画書④	実行力を持つ市民と大学が交流する場を設定するとともに、協働して研究する機会を提供する事業	
	【まちづくりフェスタ】 《年間1回計画》 まちづくりをテーマとした市民と大学の協働事業の成果を発表・共有し、交流を図る事業	毎年1ヶ月間の交流展示会とイベントデー1日を開催した。R4では約600名程だったイベントデーの参加者がR6には911名に増加する等、年々活性化している。
センターの利用促進を図り、施設の活性化を促進する事業 事業計画書⑥	センターの利用と、市民と大学との連携の促進を目的としたPR活動・情報発信する事業	
	【オーサーズカフェ】 《年間24回計画》 市民向けに「身近な話題をテーマにした講座」を実施し、来所者を増やす	■延べ参加人数 R4：806名、R5：906名、R6：873名
センターの利便性向上を図る業務 事業計画書⑦	利用者アンケートの結果からの改善により、利用者への利便性、サービス向上を図る事業	
	【利用者からの要望対応】 利用者アンケート・満足度調査などで得られた利用者からの意見の反映	無線wifiの電波強化の意見に対し、ルーターを増設し対応した。 また、施設全体を通してオンライン環境の整備を行った。
協働推進拠点間の連携及び団体間の交流機会の創出 事業計画書⑧	センターが市民・大学や協働推進拠点と連携して各主体の地域活動を支援する事業	
	センターと市各課・関連施設とで連携し、様々な取組を行った	■さがみはら市民活動サポートセンター：市民活動相談会、「市民活動情報コーナー」の設置 ■環境情報センター（エコパークさがみはら） ・地域情報コーナーに出展 ・広報の相互協力 ■その他 ・ソレイユさがみとの広報の相互協力 ・まちのコイン「すもー」を活用したSDGsスタンプラリーの実施。「ゴール17」対象施設。
自主事業		
主な事業名	内容等	効果等
チャレンジショップ	センターと大学の知名度向上や、学生の社会経験や起業を期待して、大学の資源をセンター内で提供する事業	
	【チャレンジショップ】 センターと大学の知名度向上や、学生の社会経験や起業を期待して、大学の資源をセンター内で提供する取組	相模女子大学や法政大学等、市内外様々な大学が施設にてワークショップを行い、取り組みの知名度向上につながった。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 (20点満点)	評価点 10
	B	B	B				

施設の収支概要

(千円)

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
収入 (a)	75,641	75,936	75,174		
指定管理料	36,229	35,996	30,159		
利用料金収入	36,302	37,964	44,312		
その他の収入	3,110	1,976	703		
支出 (b)	78,168	76,058	77,013		
人件費	46,270	47,371	47,109		
本社管理経費	2,918	2,918	2,918		
その他の支出	28,980	25,769	26,986		
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)	-2,527	-122	-1,839		
自主事業収入 (d)	0	0	0		
自主事業支出 (e)	0	0	0		
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)	0	0	0		
全体収支 [(c)+(f)]	-2,527	-122	-1,839		
備考	・法人の経営状況について特段の課題はないが、施設の運営については赤字が続いている。				

7 管理業務の履行状況

検査項目	確認結果				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
管理業務	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
危機管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
人員配置・地元活用	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
現金管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
会計・経理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
情報セキュリティ	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
情報公開・個人情報保護	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
加点の有無	無	無	無		
主な加点内容					

8 提案事項のうち未実施のこと

主な事項	内容等	理由・今後の実施見込等
協働委員会の設置	月1回開催の委員会を設置し、協働による解決がふさわしい地域課題をテーマにディスカッションを行う。	具体的なスキームを模索する中で、協働委員会とは別の形で取り組みを検討することとし、令和6年度より、プラットフォームの充実を計画の第一に掲げ、関係機関との連携の充実を図り、協働の推進を進めている。

9 提案事項にないが実施したこと

主な事項	内容等	効果等
プラットフォーム機能の充実	令和6年度より、運営法人である、相模原・町田大学地域コンソーシアムのネットワークを積極的に活用した。	センターの取り組み多様性が見られるようになった。今後、橋渡しに限らず、様々なアイデアや活動、つながりが生まれることが期待できる。
大学地域連携事例集の発行	施設が手掛けた大学地域連携支援(橋渡し)について、事例集を発行した。	施設の周知や依頼者から相談を受ける際に用いる資料として役立つことを期待する。(令和6年度末に作成のため、効果は今後検証を行っていく。)
社会課題アイデアコンテスト(試行)	学生がアイデア企画を提案するコンテスト。ソフトバンク株式会社、相模女子大学と連携により開催した。	大学と地域が連携する取り組みとして、プラットフォーム機能の一つとして意義あるものであり試行を踏まえた検討・取り組みを期待する。

10 指定管理者の自己評価

■利用率

コロナ禍が落ち着きはじめ、部屋の利用が徐々に戻ってきたものの、リモート会議の定着により、回復傾向は頭打ちの状況にあります。また、常連の利用者の高齢化に伴い、利用を取りやめる団体も多々見受けられます。シェアードオフィスは、入居条件のハードルの高さや、利用料金の値上げが原因となり利用が伸びていない状況にあり、大学情報コーナーの利用についてもすべてのブースが埋まりませんでした。施設の開館から10年以上を経て、施設・設備の老朽化に伴うサービスの低下や、施設貸出時の入れ替え時間がないことによる職員体制への影響等、今後に向けて様々な面で見直しを図る必要があります。

■大学と地域の連携

地域と大学の連携については、指標としては改善傾向ですが、これは単年度としての結果(相手があることなので毎年このような数字とできるかは不確定)であることと質的な課題があるものと認識しています。

こうしたことから指標達成をはじめ当施設の目的に向けた運営の在り方について、指定管理期間の途中ではありますが更に検討した結果、相模原市とも相談し、当施設のプラットフォーム機能の強化に令和6年度から取り組んでおり、限られた経営資源ではありますが、様々な取組を試行しているところです。

■地域づくり大学

地域づくり大学については、参加者数や活発なコーディネーターズサークル活動などから、一定の成果を収めていると認識していますが、本来の市民活動の支援拠点であるさがみはら市民活動サポートセンターとの連携強化が課題であると考えており、取組を進めています。引き続き相模原市とともに当事業の在り方について検討してまいります。

11 所管課意見

《施設の管理運営状況等に対する意見》

■大学と地域との連携について

連携事例集の発行や社会課題解決アイデアコンテストを始めとした新たな取組を試行錯誤して実施していることを高く評価する。

■地域づくり大学について

地域づくり大学等の講座運営事業についても、受講生の人数が年々増加する等、周知や受講生満足度の向上に取り組んだ成果が出ていることを評価する。

■施設の利用率について

一方で施設の利用率は、現指定管理期間の3年間を通して伸び悩んでいることが伺える。利用率の改善には施設のさらなる知名度・魅力の向上に取り組む必要があると考える。

■現指定管理期間を通じて

今までの現指定管理期間全般を通じて、施設の設置目的の達成に向けて多様な取り組みを実施していることを評価する。

12 選考委員会意見

《指定管理者制度の適否・運用の変更の必要性等に関する意見》

■当施設は指定管理者制度が適当である。指定管理者制度の自由度の高さを活かし、貸室業務を含めた一体的な事業を実施し、成果を挙げていただきたい。

■サウンディング型市場調査にあたり、市場性があった場合となかった場合の両面を考慮しておく必要がある。競争性がなく、また施設自体が特殊性のある施設なので、公募の申請が多くなるようにしっかりと調査を行い、申請しやすい形にする必要がある。

■運用の変更の必要性に関しては、料金や制度そのものが条例で決まっているので、枠組みを変更するのは難しい。指定管理者制度が適当であるので、公募時にいかに応募団体が指定を受けやすい状況を作るかどうかが大切である。

《施設の管理運営状況等に対する意見》

■地域の担い手である自治会や社会福祉協議会、公民館や民生委員・児童委員等、地域に根差して活動している方々が高齢化やコロナ禍で弱っている。そうした中で学生がイベントに行く、手伝いに行くということは、地域の人が元気になれるというメリットがある。その橋渡しを広げていけたら良い。地域の定期的な活動だけでなく、まずは一過性でもいいので若者が地域に出でいける窓口として、取り組みを粘り強くやっていく拠点となっていただきたい。また、緑区の方にも活動を広めていただきたい。

■利用状況等の改善を図りながら、地域の人々や学生さんの利用が促進されるように、これからもご尽力いただきたい。

■経営が継続的に赤字という心配があるので、黒字経営を目指していただきたい。そのためには稼働率を上げる、料金の設定を見直す等の対応が必要になるが、長く続けていってほしい。

■ユニコムで様々な大学生の活躍の姿が見られるよう動画等で周知いただきたい。残りの指定期間においても、センターに大きな期待をしている。

総合評価（自動判定）

B

(57/100)

